

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	ユニバーサルデザイン講義記録・演習記録資料化研究				
配分を受けた特別研究費	特別研究費				2710 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン	生産造形学科	准教授	永山広樹	他 5 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:			号 数	第 号 ( 頁～ 頁) ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法: ユニバーサルデザイン講義記録・演習記録 資料化担当者連絡協議研究会義 古瀬名誉教授他、ユニバーサルデザイン担 当者によるこれまでの研究概要の発表と提 示及び意見交換を実施			発表日	平成 26 年 7 月 30 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

ユニバーサルデザイン講義記録・演習記録資料化担当者連絡協議研究会議として本学ユニバーサルデザイン担当者及び古瀬名誉教授を招聘して当該研究の進捗状況、資料化へ向けた資料図書としてのコンセプト、資料図書としての章立てと内容について検討及び意見交換を行い資料図書としての内容を求める目的で開催した。

(研究の実施方法等)

ユニバーサルデザイン担当者連絡協議研究会議として平成 25 年度及び当該年度研究結果の提示を行い意見交換と協議を行った。さらに、平成 26 年度資料化研究図書概要の確認と調整を行った。

(得られた成果等)

担当者連絡協議研究会議として実施した結果、ユニバーサルデザイン講義記録・演習記録資料化研究として資料図書のコンセプト、図書教材としての章立てと内容、執筆担当者が定められた。

## ◆ 資料化の目的

- ・ユニバーサルデザイン講義用教材・資料として活用保存する
- 今後の展望としては、出版を検討したい。(→ ※特別講師との調整が必要)

## ◆ 教材としての大まかな流れ

## ● SUAC UDの概念 「デザイン行為の思想・哲学」

ユニバーサルデザインとは

## ● ユニバーサルデザインを考える

1) ワークショップ考察

2) 製品のチェック UD7原則+2原則(+suac)

## ・ 観察と気づき

生活行為の中から

家の中 使用/操作/見る/聴く/話す 行為  
 町・街の中 歩く/自転車/バイク・車 見る/聴く/話す  
 バス・電車・駅・空港  
 建物 学校/役所/病院等：公共建築

「〇〇が 苦手/苦勞/高い・低い/重い・軽い 状態である」  
 どうして？

これでよいのか？

意外と使いにくい

意外と不便な

観察を実践 → 気がつく → UDの始まり

## ● ヒトの多様性 社会の多様性

ヒト 言葉 文字

使う人が

モノ

建物 → 使い方：生活の仕方を考える

空間

多様性の理解

高齢者体験

五感で見る世界

行動の多様性 四肢麻痺と車いす

視覚の多様性 弱視

(→ ※特別講師との調整 著作権など)

## ● デザイン分野のユニバーサルデザイン

生産造形

メディア造形

{→5感で感じる/表現の可能性を新たなテーマとして}

空間造形

## ・ UDデザイン開発

生産造形のデザイン開発

メディア造形のデザイン開発

空間造形のデザイン開発

デザインプロセス+UDプロセス

UDプロセス UDのマトリックス？(企画)

UDデータ？(コンセプト)

UDアクションチェックリスト？(評価)

インクルーシブ・デザイン

## ● 演習記録

これまでの演習記録から

## ● UD教室

ユニバーサルデザインとは

・SUACユニバーサルデザインは 「デザイン行為の思想・哲学」

デザインにとり当たり前の思考・プロセス・行動規範

ユニバーサルデザインは、手法や方法論ではない。

アクセシビリティとユーザビリティに対するユーザーニーズは、非常に多様で幅広いといえる。ユニバーサルデザインは、この多様性の認識をコンセプトの核に置き、商品ができる限り幅広いユーザーに適用できるようにデザインする考え方とその実践を指す。しかし、現実にはアクセシビリティとユーザビリティに対するすべてのニーズに適用できるようにデザインすることは非常に困難であるため、注意深いトレードオフ(あちらを立てればこちらが立たずの状態)や段階的な改良により、「より良い」解を導き出すことが重要となる。(ユニバーサルデザイン実践ガイドライン 日本人間工学会編1章1-4ユニバーサルデザインの考え方：参照)